

会場に思いやりの花が咲く

令和5年度「小さな親切」運動全国表彰式

〈後援〉内閣府・文部科学省・NHK
 〈とき〉11月24日(金)
 〈ところ〉東京・グランドアーク半蔵門
 〈司会〉石井麻由子
 (NHK財団・ことばコミュニケーションセンター専門委員)

【内閣官房長官賞】

千葉県 青柳俊一
 (千葉県本部代表/千葉興業銀行取締役会長)
 愛媛県 尾崎英雄
 (愛媛県本部副代表/㈱フジ代表取締役社長)
 大分県 肥川史郎
 (大分県本部副代表/㈱誉寿司代表)
 鹿児島県 金沢幸一
 (鹿屋支部代表/㈱カナザワ代表取締役)
 静岡県 見野閏一郎
 (「小さな親切」運動本部特任推進委員)

【「小さな親切」運動大賞】

「小さな親切」運動福井県本部
 (代表: 池内昭彦/福井放送㈱代表取締役社長)

【「小さな親切」運動賞】

●団体の部
 山形県 鶴岡「小さな親切」の会
 (代表: 松田正彦/荘内銀行代表取締役頭取)
 宮崎県 「小さな親切」運動宮崎市支部
 (代表: 林田洋二/宮崎太陽銀行代表取締役頭取)
 ●個人の部
 東京都 中岡裕次郎
 (㈱オフィスなかおか代表取締役)

【特別功労賞】

足立統一郎
 (山陰本部監事/境港商工会議所名誉会頭)

【第39回 はがきキャンペーン表彰】

【第48回 作文コンクール表彰】

去る11月24日(金)、初冬とは思えない温かさの中、全国から約250名の皆様をお迎えして、全国表彰式を開催しました。今年度は新型コロナウイルスが第5類に移行したことから、作文コンクール入賞・入選者全員にご案内した結果、出席者は昨年の2倍以上に。表彰式は、鈴木恒夫運動本部代表の開会あいさつ、内閣府大臣官房総務課の堀江典弘管理室長の来賓あいさつのおと、表彰へ。親切

運動の推進功労者、はがきキャンペーン(エッセイコンテスト)、作文コンクールの受賞者お一人おひとりに賞状を授与しました。はがき・作文の作品朗読では、昭和の時代の人情を彷彿させる作品に共感したり、病とのたたかいに楽しさや励ましを与えてくれた人との出会いに、思わず目頭を熱くしたりと、人と人をつなぐ思いやり、親切の素晴らしさを実感した式典となりました。閉会後は、舞台で賞状を手につれやかな皆さんの記念写真撮影タイム。晴れの表彰式の思い出の写真とともに、「小さな親切」が皆さんの心にいつまでも残るでしょう。皆様、おめでとうございます。

会場ホットエピソード①

作文コンクールに歴史あり

山形市立第八小学校6年 大場美季

作文コンクールに入選した大場さんは、偶然にも毎年全国表彰式のお手伝いをしてくださっている山形県本部の大場恵子事務局次長のお孫さんで、お父様と一緒に出席してくれました。

これまで、香川県本部事務局長のお孫さんが入賞されたり、青森県本部前事務局長が中学生時代に入選したりと、運動関係者の入賞・入選が誕生しています。

「小さな親切」の心が広がり、今に続いていることに歴史を感じます。



大場家三代の記念写真

会場ホットエピソード③

「君の名は?」

大分県 肥川史郎 (大分県本部副代表)

表彰式の閉会后、「バッグの忘れ物です」と、ニット帽をかぶった少年が会場受付に届けてくれました。受付で預かっていたところ、内閣官房長官賞を受賞した肥川さんが、「バッグを忘れた」と額に汗をにじませて、駆けつけてきました。

オーストリッチのセカンドバッグは、まさに肥川さんのバッグ! お礼を言いたいと少年を探しましたが、既に退出した後でした。肥川さんの心残りは、少年にお礼を言えなかったこと。心当たりのある方は、どうぞ運動本部にご連絡ください。



(こんなバッグです)

会場ホットエピソード②

今回はエッセイコンテストに挑戦

香川県立飯山高校1年 佐藤紀代

小中学生が対象の作文コンクールで、何度も入賞・入選を果たした佐藤さんは、今年高校生となり、病院での警察官との出会いを綴りはがきキャンペーンに応募。見事、日本郵便賞を受賞しました。

佐藤さんの作品には、いつも家族のあたたかな温もりや絆が表現され、本人の持つ優しく豊かな感受性にあふれています。現在は、看護師になるべく勉強中の佐藤さん。きっと患者さんの心に寄り添い、支える看護師さんになることでしょう。

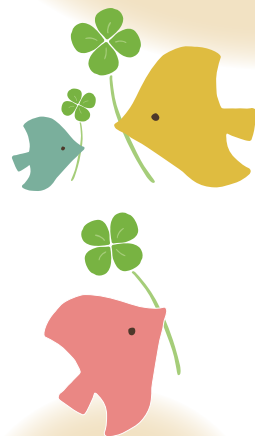
会場ホットエピソード④

ワンポイント手話講座

岩手県立一関第一高等学校附属中学校3年 千葉愛唯花

耳の不自由なお友だちと、公園でマスクを外し手話で話していた千葉さんは、「あの人たち、マスクを外しているよ。ダメなんだ」と言った男の子に、その子のお母さんが「お姉さんたちは声じゃなくて、手でお話するの。それには顔をみないとできないから、マスクを外しているのよ」と話してくれた、そのときの感動を作文に綴り「小さな親切」運動本部賞を受賞しました。

手話には、同音異義語のように、手話の形は同じでも意味の異なる言葉があるので、手と口の動きでつたえることが必要です。耳の不自由な友達に会い、自ら手話教室に通ったり、YouTubeで勉強している千葉さん。当日はコミュニケーションのきっかけとして、最初に覚えて欲しいと「ありがとう」の手話を教えてくれました。



* はがきキャンペーン、作文コンクールの入賞・入選者氏名はWEBサイトをご覧ください。